

今の福島を伝えていくために

福島 の復興と 未来を 描く



展示室「ふくしまの環境のいま」にある東日本大震災から経過した時間を見るコーナーが出来る。中央にあるのはその三・一一クロック

「コミュニティ福島」の愛称で知られている福島県環境創造センター交流棟。二〇一六年七月に開館し、六年目を迎え、来館者は四十万人を達成した。展示リニューアルに向けた現在の展示終了を二日後に控えた、十一月十一



インタビューに答えてくれた五十嵐俊則さん(右)と滝浦真弓さん

日、担当の五十嵐俊則さんと、解説員の滝浦真弓さんにお話しを伺うことができた。展示では、福島第一原発・東日本大震災・環境問題など、原子力災害からの環境回復と未来について、体験型展示や全球型シアターで、楽しく学ぶことができる。来館者の中には震災で大きな傷を負い、涙を流す人もいます。そういった人のために、震災を知らない人に正しい情報を伝えるという点に重きを置いている。



原発の被害状況だけでなく、環境の影響についてのコーナーもある

コミュニティ福島

◆ 住 所 福島県田村郡三春町深作10番2号
◆ 営 業 時 間 午前9時～午後5時
◆ 定 休 日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合翌平日)
◆ 電 話 0247-61-5721



新たな環境問題に向け、展示リニューアル



展示更新の1つ「未来創造エリア」
イメージ図: コミュタン福島提供



オーガニックコットンの説明を受ける様子(上)
と収穫したコットン(下)

令和五年三月中旬にリニューアル予定の新しい展示では、原発や東日本大震災の記憶の継承と共に、最新の課題である環境回復や、SDGsなどの世界の流れの中で、福島の課題に着目して伝えようとしている。

デジタルコンテンツを多用して過去・現在の情報を分かりやすく伝える。福島県が行っている環境問題回復への取り組みから福島県の未来について考える展示となる予定だ。

小学生を対象とした自由研究のポスターセッションでは、自分の疑問点を改善すると同時に人前で発表したりと、話し合いを行うことで、コミュニケーション能力を育む狙いもある。

令和五年三月中旬にリニューアル予定の新しい展示では、原発や東日本大震災の記憶の継承と共に、最新の課題である環境回復や、SDGsなどの世界の流れの中で、福島の課題に着目して伝えようとしている。

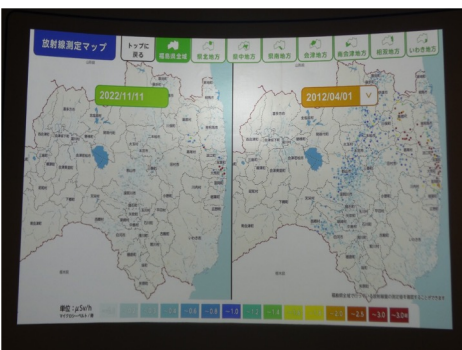
デジタルコンテンツを多用して過去・現在の情報を分かりやすく伝える。福島県が行っている環境問題回復への取り組みから福島県の未来について考える展示となる予定だ。

小学生を対象とした自由研究のポスターセッションでは、自分の疑問点を改善すると同時に人前で発表したりと、話し合いを行うことで、コミュニケーション能力を育む狙いもある。

震災について知らない世代が生まれ、変わりゆく環境と課題がある。ここに来れば学ぶことができ、意識が変わる。学んだ知識や体験から福島の未来が創造される。これからの背負う世代に向け、コミュタン福島は進化し続ける。

コミュタンで偏った知識ではなく、正しい知識を得て学んだ先に、将来の夢や仕事につながる、福島県への貢献や、情報を発信する側になる子どもが出てきてほしい。そういうことができる場をいつでも提供できればと願う。

現在はオーガニックコットンを使ったイベントを検討中で、実現に向けた試験栽培に取り組んでいる。



福島県内の放射線の空間線量をリアルタイムで知ることができる



震災当時発行された新聞。原発や避難生活などが書かれている



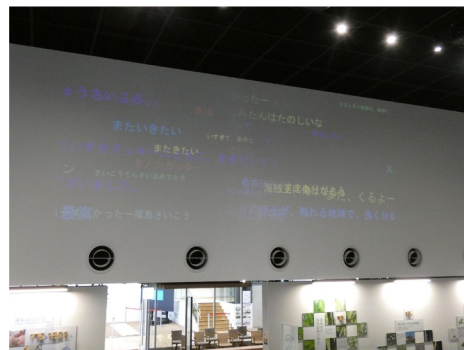
3.11の原子力発電所の事故を再現したミニチュア模型



放射線量や人口分布が福島県の3Dモデルに映し出される



SDGsの積み木パズル。遊びながら17の目標を知ることができる



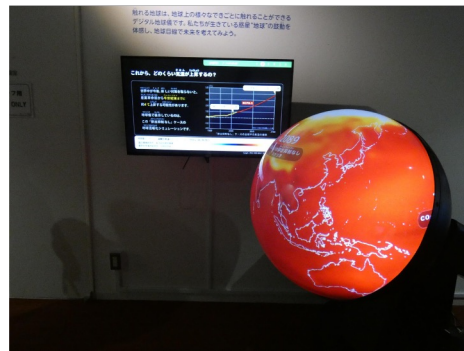
来館者がタブレットに感想を書きこむとスクリーンに映し出される



解説員の説明で、展示内容をより詳しく理解できる。写真は福島環境回復について学んでいる様子



家庭ゴミを各市町村ごとのルールに乗っ取り、分別するゲーム体験



「触れる地球」を通して地球で起きていることを知覚できる

展示更新

令和5年3月中旬から変わる展示内容。「ふくしまの3.11から」など一部を除いて展示更新が行われる。新エリアは3つある。



- **未来創造エリア**：原子力災害による自然環境への影響や地球温暖化などの環境問題
- **環境回復エリア**：環境創造センターの研究機能を紹介する映像の放映や福島環境回復についてタイムリーな展示
- **環境創造エリア**：ジオラマや映像を使い再生可能エネルギーについて学べる展示やアバターを使って地域資源を活かしたサステナブルな暮らしを疑似体験

新しい展示でのリニューアルオープンが待ち遠しい。

取材活動を振り返って



取材途中に撮影した集合写真：右端の五十嵐俊則さん、左端の滝浦真弓さんに挟まれ取材メンバーが並ぶ
(左から小林真子・小野寺美咲・川前陽菜・安部晴華)。メンバー1名は授業が重なり訪問ができなかった



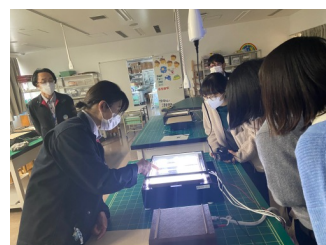
オーガニックコットンを用いた学習内容の説明を受け、提供される学びの深さを実感する

活字の説明がメインではなく写真やミニチュア模型などを多用しており、視覚から得る情報にまず興味湧きました。興味本位から展示内容を次々に見ていくと、中でも映像を介して原発事故復興や県内環境の現在・過去と学べるところが良かったです。リニューアルオープン、楽しみに待っていました。

環境問題などについて楽しく学ぶことを重要視している施設だという印象を受けました。文字ばかりの展示ではなく、デジタルで自由自在に操作し、体験することで新しい発見があるのかなと思います。福島未来を考える有意義な時間になりました。

安部晴華

小林真子



取材時、小学生対象の放射線実験準備をしていたが、私たちにも丁寧に解説をいただいた

私は宮城県から来たため、福島県の現状について知らないことが多かったのですが、コミュニティ福島展示を見て、福島環境への取り組みや福島県の子供たちという未来を託したいというそんな想いが詰まっている展示だと感じました。「福島県の未来を創る」その想いを是非とも全国そして世界中の方に見て欲しいです。

展示について解説してもらい、小さい頃に経験した記憶が蘇り、あれから福島県は前に進んでいるんだなと感じました。取材を通して、職員の方がどんな思いで福島のことを伝えようとしているのか知ることができてよかったです。

川前陽菜

小野寺美咲

郡山女子大学短期大学部地域創成学科 取材活動プロジェクトが取材しました



私たちは、福島県郡山市にある郡山女子大学短期大学部地域創成学科の学生が「取材活動プロジェクト」です。二〇一九年から活動を開始し、福島県の地域に根差した多様な文化や活動を学生視点で取材し、情報発信することによる地域貢献を目的としています。

インタビュアー、カメラマン、活動記録など役割を担った学生取材チームを組み合わせ、取材結果は、新聞を想定した記事として作成すると共に、ブログ記事などのWEB公開を行うことで地域社会に向けた情報発信を行います。



上段左から：山口猛(指導教員)・安部晴華・小林真子
下段左から：小野寺美咲・猪俣礼乃・川前陽菜

プロジェクト専用WEBサイトで記事の詳細や活動内容を紹介。2019年からの活動内容の記事が全てご覧いただけます。ぜひQRコードを読んでご覧ください。

